

## 日本海水学会第3回若手の集いを終えて

石川 匡子

日本海水学会第54年回2日目にあたる6月12日、岩手大学工学部生協にて第3回若手の集いを開催しました。例年は年会前日に行っていた若手の集いででしたが、より多くの方々に参加していただけるようにということで、今年度は若手会員の多くの方が参加されるポスター発表日に開催しました。当日同時開催されたシンポジウム「海際を科学する」でご講演された講師の先生、海水学会理事の先生方にも参加していただき、総勢22名となりました。

今回は若手の集い参加者の中から2人ポスター賞を受賞したというおめでたいこともあり、会は明るいムードで始まりました。また、発表後ということもあり、会話が弾み、交流という点ではよかったと思っています。さらに、普段は講演でしかお目にかかれぬ先生、若手研究者の方々と、ごく身近でお話することができ、よい機会であったと思っています。若手研究者といながらも、何年もその道に携わっているプロですから、各個人の研究についての意見交換、アドバイスも活発に行われていたと思います。やはり、若手の集い開催時期をポスター発表終了後にしたのは正解だったと思いました。

今回参加してくださった若手みなさんにアンケートをとったところ、参加しようと思ったきっかけは、「他の研究分野の人と交流を持ちたかったから」、「情報収集をしたかったから」という意見がほとんどでした。今後どのような内容にしていけばよいか？という問いに対しては、「今のままでよい」という意見のほかに、「新しい力を学会に反映していけるようにしたい」、「もっと情報交換ができればよい」、「若い力で若手の集いをもり立てていきたい」、「年会以外に、今回のように若手同士で話し合える機会が増えればよい」という積極的な意見が多く出てきました。

先生方が若手の集いを企画された狙いについては、ただ交流をはかるだけではないと思われます。今回で3回目の開催ですので、さすがにそ

れだけではいけないと思います。昨年幹事のバトンを受け取ってからいろいろ考えましたが、結局良い案はうかびませんでした。しかし、回数を重ねたことで、参加者に仲間意識が生まれ、そして、今回のような若手の集いをこれからさらに盛り上げていきたいという意見が個々から出始めたというのが、3回目となった若手の集いが一回り成長したことだと思います。トップダウンで与えられるのではない、自発的に企画するということ先生方が考えていらっしゃるのではないかと、今更ながらに感じます。さらに若手間の交流が深まり、若手のみの企画、勉強の場ができることも遠い将来ではないような思いを抱いています。

「また来年も会いましょう」と言って笑顔で解散となりました。参加してくださった一人がアンケートに書いてくださった言葉「とにかく続けることが大事!」、続けることで、今後どういう会にすべきかというはっきりした目的や方向性も見えてくると思います。まずは、「今年も若手の集いに参加しよう!」と思っただけのような会になればいいと思っています。

最後に参加してくださった若手会員のみなさん（特に新幹線の発車時間までの短い時間を利用してくれた学生さん）、先生方、どうもありがとうございました。また、若手の集いの進行を任せてくださいました、海水学会幹事の先生方どうもありがとうございました。

